平沼高校から発信 ～十代の視点～

6月から偶数月に、十代の視点で、横浜平沼高校からさまざまな話題を発信していきます。第1回は、「古くて新しい」私たちの学校についてご紹介します。

伝統の平沼

私たちの学ぶ横浜平沼高校は、明治33(1900)年神奈川初の県立高等女学校として創立され、この春104期生を迎えました。平沼100年の歴史を、制服にスポットを当てることで、たどってみました。

創立当時、女学校の制服は全国でもまだ珍しいものでした。しかしその制服は「洋装または短袖(そで)・茶袴(はかま)」。袂(たもと)を短くした「筒袖」は男性が着るものだったため、不評だったそうです。15年後、筒袖は元禄袖になりましたが、木綿地の着物の柄は大変地味なものでした。それでも、この制服は、県下一の女学校として県内では知らない人のない名門校のシンボルとなりました。

昭和5(1930)年、校名が県立横浜第一高等女学校に変わると制服も紺色のジャンパースカートに白いブラウスという洋装に一新されます。この制服は「都大路を歩いても恥ずかしくない」と大喜びされたそうです。この制服も戦時中は「全国統一規格」や「戦時規格（モンペスタイル）」になってしまいます。昭和25(1950)年、「横浜平沼高校」となり共学が始まると男子は黒の詰襟、女子は紺のジャンパースカートにダブルのブレザー、夏はウエストで留めるスカートという現在とほぼ同じものになりました。

さて現在は・・・女子は少し(？)丈を短めにしたウエストで留めるスカートを一年中はく人が多いようです。そして胸元のリボンやネクタイはささやかな個性の表現。それでも合唱コンクールや伝統のダンス「ファウスト」のときはジャンパースカートが活躍します。それに比べて男子はかなり地味(？)

はじめて平沼の歴史について学んだとき、初代の制服が着物だったのを知ってとても驚きました。身近な存在の制服の歴史から平沼の伝統を実感！！

3年

新しい平沼

新しい平沼のキーワード「三つのＳ」について紹介しましょう。

【先輩セミナー】社会のさまざまな分野で活躍する本校の卒業生が自分の専門分野について紹介してくださる特別講座。私たちの進路選択の目を開いてくれるありがたい企画。3月には、アニメーションディレクターとして活躍している伊藤有壱先輩(78期生)の講座がありました。想像していたのとは違い、クレイアニメーション(粘土の人形を動かして作るアニメーション)は粘土を動かすアニメーターやディレクター、ファッションデザイナーなどたくさんの人の手で作られる大掛かりなものなのでした。撮影は一日かかってＴＶ画面たった一秒分ということも・・・。この仕事の奥深さを思い知ったのでした。先輩の話を伺うことで、私たちは将来の夢を見つめ直し自分たちの可能性を広げていきます。

【スタディーショップ】放課後に設置された特別教養講座(勉強のために開かれたお店)。種類豊富で、学年クラスを越えた交流も可能です。昨年はスペシャル版で演劇指導者の柏木陽先生をお招きして「曽根崎心中」を「劇的」に勉強したり、駐日エジプト大使ヒシャム・バドル氏のお話を伺う機会もありました。生徒だけでなく保護者や先生たちも授業を楽しんでいます。

【ＳＬの時間】蒸気機関車の時間ではありません(念のため)。昨年度から行われるようになった「総合的な学習の時間」を、平沼では“self learning”を略してＳＬの時間と呼んでいます。1年次は「自己発見」がテーマで、自分の興味関心や性格の傾向について考えてみるほか、自分の興味のある学科について調べたり、実際に大学訪問をしたりします。2年次は「自己探求」、自分で興味のあるテーマを設定して調べたり発表したりします。企業訪問なども予定しています。新しい試みなので、先生も生徒も試行錯誤しながらですが、大学や企業などで、普段の授業とは違った経験ができ、充実した時間になっています。

3年　2年・　2年・　2年